

総合的な学習の時間 「福祉文化祭へ向けた取組」

三浦市立初声中学校



単元（題材）目標

- 「いのちのうた」を通して、一人ひとりが自他の「いのち」について考え、大切にしてい
く心を養う。
- ボランティア実践や手話学習を通して、より良い社会の実現に向けて、自分ができる支援
について考えることができる。（3年ボランティアコース）

（1）実施時期

6月～7月
10月上旬～文化祭

（2）対象（学年等・人数）

全学年 258名
第3学年 ボランティアコース 30名
福祉文化祭当日来場者



（3）指導者（教諭・外部講師等）

全職員
市内手話サークル「ともしび」6名
（手話通訳者1名、聴覚障がい者1名）



（4）実施内容

- ① 「いのちのうた」の歌詞を考える（全校）
- ② 手話サークルによる講演・手話体験（3年ボランティアコース）
 - ・難聴の種類、コミュニケーションを取る方法、日常生活で困っていることへの補助の仕
方等
 - ・簡単な挨拶、感情表現、「365日の紙飛行機」・「いのちのうた」の手話
- ③ 「いのちのうた」の練習（全校）
 - ・3年ボランティアコースの生徒を中心に、「いのちのうた」の手話を全校で指導
- ④ 福祉文化祭での「いのちのうた」発表（全校）
 - ・1～3番は各学年で歌い、4番は手話付きの全校合唱

（5）成果

- 講演や体験を通して、聴覚障がい者への理解、自分たちにできる支援の仕方や考え方につい
て学ぶことができた。
- 全校で手話の指導をすることで、学んだ内容を全校で共有することができた。
- 全校で「いのち」について考える機会をもち、考えたことを手話を用いて、保護者や地域の
方々に発信することができた。

（6）その他

本校では、総合的な学習の時間の中で、全学年「福祉」について継続的に学んでいる。また、各委員会でも「福祉」を意識した取組を多々行っており、その成果を文化祭で発表している。そのことから、文化祭を「福祉文化祭」と呼んでいる。